広報かがみの 4
2021年4月号 第194号 毎月1日発行

シリーズ 第131回

「鏡野」の由来と鏡作部伝説

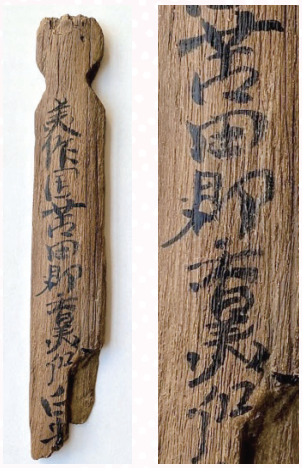
先月号の銅鏡の話の続きではないですが、私達の住む「鏡野」の地名にはどのような由来があるのでしょう。

「鏡野」の地名は、昭和二七年（一九五二）に芳野・小田・中谷・大野・香々美南・香々美北の六か村が合併した際に新たに作られた名称で、古くから存在した地名ではありません。この地名の由来については「昔、この地で鏡を作っていたから」という漠然とした答えが頭に浮かぶ方も多いと思いますが、昭和二七年の合併から間もなく書かれたと思われる「鏡野町合併資料」には町名の由来について、

上古の頃、鏡作りの業を以て朝廷に奉仕したる部族を鏡作部と云ったが、この族類は古くからこの地方に土着して、この地域の開発に当たっていた。即ち鏡は苫田郡開発の創始者である鏡作部の故事に由来し、更に香々美北・香々美南・大野が往時「香々美荘」といっていたものにちなんでいる。鏡野の「野」は小田・中谷・芳野が「野介荘」と呼んでいた意味を含めて野とつけたものである。

と書かれており、鏡作りの伝説が町名の由来になったことは間違いないようです。

中山神社（津山市）


長岡京出土木簡（複製）
「苫田郡香美郷」の文字が見えます

この由来の鏡作部の説明部分の文章は、昭和二年（一九二七）に刊行された『苫田郡誌』の中の「鏡作部の土着」の項を引用しているようですが、『苫田郡誌』の中ではこの他にも、平安時代に編纂された古代の氏族名鑑である『新撰姓氏録』の中で、鏡作りに従事していた一族に鏡作部・鏡作連・竹田連・竹田川邊連などの姓があり、苫田郡内に香々美・竹田の地名が存在すること、そして鏡作部の祖神（石凝姥命）が、当時は苫田郡であった美作国一宮の中山神社（津山市一宮）に祀られていることなどを鏡作部存在の根拠としています。

しかし、実際に町内に鏡を作っていたと思われるような遺跡や、そうした事実を記録した文献などは存在しませんので、考古学・歴史学の観点から鏡作部が土着して鏡を制作していたことは証明できません。

立石盛詞氏は、鏡作部の伝説は大正一二年（一九二三）に刊行された『中山神社資料』にある「中山神社祭神考」が初見で、古くから伝わっていたものではないことを指摘し、「香々美」の地名は川の上流を意味する「川上」から転訛したものと推定しています。

香々美（＝香美）の地名は、長岡京出土木簡の中に「苫田郡香美郷」の墨書があるように、古代からある地名です。「香美」の漢字表記は、和銅六年（七一三）の「諸国の地名は縁起の好い漢字二字で表記するように」という政策（好字二字令）によってあてられたものですが、それ以前から「かがみ」と呼ばれていたことは間違いないでしょう。これが「鏡」「川上」のどちらにちなむのかは、現段階では明確な答えは出せません。湊哲夫氏は、鏡作部がこの地で鏡を作っていたのではなく、中央（都やその周辺）で鏡作りを行う工人の生活などを支えるための農民集団の存在を指摘しており、これを肯定すれば「鏡」が起源となるでしょう。

「かがみ」の地名は全国各地に存在します。これらの地名がどのような場所にあるのか、そして地名の由来が何であるのかを調べることで、何かヒントがつかめるかもしれません。

参考：『鏡野町史』『苫田郡誌』『岡山の博物館』№10、「鏡野町合併資料」

鏡野町教育委員会　生涯学習課　日下
電話(0868)54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/